

第2回 進路説明会 資料 訂正

《今後の予定》

11月

- 6(水) 第4回実力テスト(済)
9(土) 第2回進路説明会
18(月)～22(金) 進路懇談(三者面談)
27(水)～29(金) 2学期期末テスト
28(木)29(金) 進路用写真撮影

12月

- 進路希望調査
16(金)～19(木) 進路懇談(三者面談)
私立受験校の決定が目的。公立前期もできるだけ決定したい。
20(金) 進路委員会
受験予定者全員の合格可能性の検討。
24(月) 調整懇談(必要な人のみ)
私立受験校の再検討。
冬休み 願書受領(各自)
自分の受験校が確定した人は、行って出願書類一式をもらってくる。

1月

- 7(火) 始業式
7(火)～9(木) 私学進路相談(私立校と中学の情報交換)
厳しい情報が入れば、すぐ再懇談し受験校を変更することもある。
8(水)9(木) 第5回実力テスト
主として公立の受験校決定の参考にする。
中～下旬 受験関係書類の準備(受験料振込も), 完了
下旬 私立一斉出願(私立が第一希望なら「専願」, 公立のすべり止めなら「併願」)
25(土) 府大高専 小論文面接特別選抜(推薦制, 40名)
評定72以上必要, 出願期間14(火)～16(木), 合格内定は29(水)
28(水)～30(木) 3年学年末テスト

2月

- 公立前期選抜の受験決定, 書類準備
10(月)～11(火) 大阪府私立高校入試(京都, 兵庫も同日, 奈良は6日)
翌日～3, 4日以内に合否通知郵送。専願合格者は手続きして受験終了。
14(金) 前期選抜一斉出願
16(日) 府大高専 学力検査選抜(120名)
出願期間3(月)～6(木), 合格発表20(木)。合格したら手続きをして受験終了。
前期選抜と両方は受験できない。
17(月) にぎり出願(締切午後4時)
当日の朝刊を見て、倍率の低い学校に出願する。
20(木) 前期選抜学力検査(翌日が実技, 面接の学校もあり)
進路懇談(三者面談)
後期選抜の受験校の決定
27(木) 前期選抜合格発表(午後2時, 揭示)
入学手続きをして受験終了。

3月

- 5(水) 後期選抜一斉出願
6(木) にぎり出願(締切午後4時)
当日の朝刊を見て、倍率の低い学校に出願する。
12(水) 後期選抜学力検査
14(金) 卒業式
19(水) 後期選抜合格発表(午後10時, 揭示)
25(火) 二次選抜(欠員のあった学校のみ募集あり。学力検査なし)
正午締切。出願時に個人面接。これと調査書の総合判定。
私立高, 専修学校などに併願合格して入学の権利を残している人は
出願できない(私立入学の権利を放棄すれば、出願可能となる)。

4月

公立定時制の補充募集発表(学力検査は上旬～中旬ごろ)

9月

- 19(金) 秋季選抜(16(火)出願, 24(水)合格発表)
長吉(全日制単位制), 桃谷(クリエイティブⅠⅡ部およびⅢ部)の2校で実施。

《11月、12月の進路懇談で話し合うこと》

生徒、保護者、担任の三者で、生徒本人が今後も伸び続けていける生き方の方向を話し合います。
(中学校での進路決定は最終のものではなく、その先をどのように考えて今の選択をするのか)
その中で、私立受験校を決定していきます。また、公立前期もできるだけ決定します。

- ※ 成績資料は、主に第2～4回実力テストの点数、および10段階評定を用いて合格可能性を探っていきます。実際に私立高校、前期選抜の公立高校に送る報告書、調査書に記載する評定は、1～2学期を通算した評定であり、11月の懇談時にはまだ出ていませんので、1学期の評定を使用して話し合いますが、あくまでも参考です。
12月に出た評定が大幅に下がっていたりすると、11月のときと懇談の話が変わってしまうことがありますので注意してください。

- ※ 懇談前の進路希望調査に書いていただいた学校について話し合うことが中心になります。希望が急に変わったり、新しく希望校が出てきた場合は、できるだけ懇談までに担任までお知らせください。

確認すること

- ・進学か、就職か　　・高等学校か、その他の学校か　　・全日制か、定時制か、通信制か
- ・第一希望は私立高校か(専願)、第一希望は公立で、私立もすべり止めで受験しておくか(併願)、私立は受けないで公立のみを受検するか。
- ・私立の場合、学校名、学科、コース名、専願・併願の別。その学校の第2希望、第3希望のコース。

- ※ 私立の希望校について、学力の面で合格は難しいのではないかと思われる場合は、校内の進路委員会や1月の私学進路相談の後で、さらに調整のための再懇談をおこなう場合があります。

- ・公立の場合、学校名、学科名。専門学科で第2希望の学科(定員割れのときのみ関係あり)。
- ・併願の場合、第1希望の公立はどこか。この公立が万一不合格の時は、併願の私立に進学することに納得できているか(もし納得できていないならば、公立の希望校をもっと合格しやすい所に変更するか、あるいは思い切ってもう少し難易度が上の私立の専願に切り替えるか)。
- ・公立の受検校は前期選抜か後期選抜か。前期選抜を受けて万一不合格の時は、後期を受けるか、受けずに私立に手続きするか。

- ※ 公立の場合は、合格可能性が微妙な時でも、出願者の倍率(競争率)が低い時なら合格できることがあります。それを期待して、締切の日まで待って倍率の低い学校に出願する「にぎり」という出願方法があります。

- ※ 高専を希望する人は、高専の学力検査選抜と公立前期選抜とは両方受検することはできません。

- ※ 保護者が本人と別居して他府県に住民票がある場合(単身赴任等)、公立高校の受検のときに特別事情申告書を提出する必要があります。担任の先生に知らせて指示を受けてください。

- ※ 数年前から実施されている授業料の負担軽減の制度が、来春から変更される見通しです。
国の施策で、これまで生徒全員について、公立授業料分にあたる年間11万8800円の負担軽減(公立高は無償)になっていましたが、来春から、それは年収910万円未満の世帯に限られることになります。また、所得の低い世帯に対する加算支給も拡充されます。
なお、大阪府の私立高校の負担軽減の施策は、これまで通り、両親の所得の合計と子どもの人数に応じて、「無償」、「10万円のみ負担」、「全額負担」の区分に分けて実施されます。(ただし、今の中2の生徒が高校を卒業するまで維持するという見通し)
なお、この制度の注意点は3つあります。

- ① 無償となるのは授業料だけで、他の費用は全額自己負担です。
- ② 4月の入学時には授業料も一旦高校に納めなければなりません。支給されるのは10月以降です。
- ③ 10月1日以前に退学すると支給されません。

くわしくは「私学のイイとこ満載！」P.8, 9をご覧ください。

なお、大阪府内の高等専修学校についてもこの制度が適用されるところが多いです。一度、希望校にご確認ください。

- ※ 私立高校には、中学時代の成績や入試当日の得点や順位が優秀な場合、学費の負担をさらに軽減する「奨学制度」を設けているところが多くあります。これも各校ごとにご確認ください。

- ※ 就職や職業技術専門校(テクノセンター)は、ハローワーク大阪東と連携を取って紹介していきますので、懇談時にお申し出ください。

- ※※ 6月の進路説明会で配布した『進路の手引き』にのらなかつた新しい変更事項が1つあります。
前期選抜で募集する全日制普通科が2校追加になった。
府立夕陽丘高、府立東住吉高(いずれも普通科40名を前期で募集。80名ではない)